

技術

項目	観点	教科書名		
		新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology(2・東書)	NEW技術・家庭 技術分野 明日を創造する(6・教図)	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて(9・開隆堂)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するために、どのように配慮されているか。	・「技術の見方・考え方」を「社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性」の4つの視点の折り合いから技術を「最適化」することと捉え、どの内容においても見方・考え方をイメージしやすいように具体例を掲げていて分かりやすい。 ・各内容A～Dの内容の導入ページには学習内容と共に「技術の見方・考え方」と「技術の最適化」についてまとめられており、学習の見通しがしやすくなるよう配慮されている。 ・「技術の天秤」「最適化の窓」などを活用し、生活や社会とのつながりを意識したり、技術を多面的に評価したりすることで、技術の最適化を見出すことができるように配慮されている。 ・「TECH Lab」による基礎的な技能の解説や「問題解決例」など、学習を深めるためのページやコラムによって、基礎技能の習得や実践的・体験的な活動を図りながら、社会との関わりなどについて理解を深められるよう配慮されている。 ・各編の「学習のまとめ」では、学習指導要領に定められた3観点によって振り返りを行っている。 ・Society5.0やSDGs（持続可能な開発目標）が紹介されていて、社会とのつながりを意識させることで、これからの「技術」の在り方について考えさせている。 ・本文などに「防災」・「環境」などのマークを用いて環境や社会との関わりを示し、生活との関連や結びつきを常に考えられるように配慮されている。 ・写真や説明資料により、生徒が学習のポイントに気付きながら基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるように配慮されている。 ・問題解決例（材料、作業手順、「私の工夫」）が豊富であり、より実践的な課題が提示されている。	・「簡単な製作・制作・育成」を行ってから「自分の設計にチャレンジ」に進むといった、段階的な学習の流れになるように工夫されていて、基礎的な知識や技能を習得できるように配慮されている。 ・各編の最終章「学びを深め生かそう」のまとめでは、学習指導要領に定められた3観点によって振り返りを行うことで、資質・能力をが育めるように配慮されている。 ・生活上の課題を解決する視点で資料を掲載し、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解できるように配慮されている。 ・具体的な加工法を図や写真を整理して大きく掲載し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技術を習得しやすいうに配慮されている。また、作業手順の説明の中に、「基礎技能」などのコーナーを示し、具体的な技能の確認ができるような配慮がされている。 ・専門的な技術者や伝統的な技術の継承者などのコラムを掲載することで、「ものづくり」への興味・関心を一層向上させることができるようにしている。 ・未来社会を創造するためにSociety5.0やSDGsを取り上げ、社会とのつながりを意識させることで、「技術」の未来について考察できるようにしている。	・「技術の見方・考え方」について、「科学的な原理・法則」「工夫」「技術のしくみ」を重視し、各内容において確実に踏まえた上で、「人々の願い、経済性、環境への負荷」などに着目し、技術を最適化することと捉えているのが特徴的である。 ・ガイダンスp14「技術の見方・考え方（最適化・トレードオフ）」の詳しい説明があり、これをもとに各編で技術の見方・考え方を捉える活動を繰り返し行うことで資質・能力が確実に身につくように配慮されている。 ・各編とも「知識や技能を身につける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」という学習の流れがイメージしやすく配慮されている。 ・各内容の導入部分では「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」という生徒が興味もちやすい発問の工夫があり、その後課題を解決するために必要な知識や技術を学ぶことができるように学習の流れが配慮されている。 ・各内容ごとに持続可能な社会の実現に向けた取組（最適化・トレードオフ）等の資料を掲載し、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解できるよう配慮されている。 ・各内容の学習のまとめとして、身につけた知識や技能をこれからの社会にどのように生かすかなど、持続可能な社会の構築への意識を高められる工夫がある。 ・図や生徒目線の写真を組み合わせて掲載し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を習得しやすいうに配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	・技術分野の学習方法として「ブレーンストーミングとKJ法」、「フィールドワーク、インタビュー」、「まとめ方と発表の仕方」など、主体的・対話的な学習についての参考資料が記載されている。 ・各内容とも、学びの過程「問題解決のプロセス」が統一化されている。各ページにプロセスの現在位置が記されていて、生徒が学習の見通しをもちながら活動に取り組めるような工夫が見られる。 ・「問題解決例」として実習課題を多数掲載し、さらにどれも「問題の発見」「課題の設定」「評価・改善」のポイントを掲載し、生徒が主体的に考えながら取り組める工夫がされている。 ・発問等が記載されていることで、生徒が考えたり話し合ったりする活動を促す工夫がみられる。 ・学習を深めるためのページやコラム「技術の匠」「技術のとびら」を掲載したり、「技術の工夫」を各ページに取り入れたりすることにより、興味関心をもつことができるような工夫が見られる。 ・「リンク」や「他教科」「小学校」のマークを用い、既習事項や今後の学習を関連付けて考えることができるよう配慮されている。 ・インターネット上のコンテンツを利用して学習できる内容には「D」マークをつけ、より深く学ぶことができるように工夫されている。	・4つの編すべて3章構成となっている。さらに、各内容とも「見つける」から始まり、「振り返る」で終わる流れで統一されており、生徒が見通しをもって主体的に取り組めるような工夫が見られる。 ・生活上の課題を解決する視点で考えるための資料を掲載し、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解できるよう配慮されている。 ・実習過程を細かく示し、生徒が実習例の写真や図を参考にしながら活動に取り組めるような工夫が見られる。 ・各内容の「じっくり学ぼう」のページでは、問題を発見したり、解決したりがしやすくなるような工夫と、それにより生徒が主体的に取り組めるような工夫が見られる。 ・「やってみよう」「もっと知ろう」のコーナーを設けて、生徒が主体的に取り組み、学びを深めていけるような工夫が見られる。 ・別冊ハンドブックを用意することにより、生徒が課題を解決する際にすぐに確認ができるように工夫されている。	・章ごとに学習目標と学習課題がしっかりと明記され、何についての学習なのか生徒が理解して取り組めるように配慮されている。さらに「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」といった導入課題を提示することで、友達や資料と対話し、生徒が主体的に課題意識をもって学習に取り組めるような工夫がされている。 ・各内容とも「基本的な知識・技能」「問題解決」「振り返り」という基本的な学習の流れを共通して行い、生徒が見通しをもって主体的に学べるように工夫されている。 ・「科学的な原理・法則」「工夫」「技術のしくみ」の3つのキーワードを重視して、各内容の学習を展開しており、これらの3つのキーワードに関する記述が、充実している。 ・各ページに掲載されている「豆知識」に本文中の追加の説明を入れることで、より多くの知識を得られるように工夫されている。 ・ものづくりの過程について写真やイラスト等で示し、生徒が学習の見通しをもちながら活動に取り組めるような工夫が見られる。 ・「リンク」を設定し、他の学習内容や家庭分野、他教科の内容との関連付けを図る工夫が見られる。
3 配列・分量	○内容AからDの構成・配列及びその関連について、どのような特色があるか。	・内容A～Dはバランスよく配分されている。また、新学習指導要領で示されている各内容の三つの要素（生活や社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術）を踏まえた学習の流れで構成されている。 ・インターネットを利用して、動画やシミュレーション、他教科との関連、ARなどのデジタルコンテンツが利用でき、QRコードが各編のはじめに掲載されている。 ・小学校や他教科等との関連を、編頭や実習のページ等に表示することにより、系統的な指導ができるような構成に特色がある。 ・発展的な課題や資料等の種類が豊富で、様々な実習例を取り上げている点に特色がある。 ・巻末に3年間で学んだことを生かして取り組むことのできる「統合的な問題解決しよう」というページが掲載されており、豊富な例が示してある。 ・各編の最後には「学習のまとめ」のページがあり、学習の振り返りができるように工夫されている。	・内容A～Dはバランスよく配分されている。また、新学習指導要領で示されている各内容の三つの要素（生活や社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術）を踏まえた学習の流れで構成されている。 ・多くのページにQRコードが掲載されており、それらを読み取ることでインターネットを利用して資料や動画などのデジタルコンテンツが利用できる。 ・小学校や他教科、他の章との関連を章のはじめに表示することにより、相互の学習内容の理解を深めながら学習を進めることができるような構成に特色がある。 ・各編が「本文ページ」「設計・計画ページ」「実習ページ」という流れで構成されており、別冊のハンドブックとの併用により分かりやすく実習できるよう配慮されている。 ・課題意識をもたせるための発問や発展的に扱う実習例が充実している点に特色がある。 ・資料が豊富で、資料番号を明記（網掛け表記）することで分かりやすく配慮されている。 ・各編の最後には「学習のまとめ」のページがあり、学習の振り返りができるように工夫されている。	・内容A～Dはバランスよく配分されている。また、新学習指導要領で示されている各内容の三つの要素（生活や社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術）を踏まえた学習の流れで構成されている。 ・多くのページにQRコードが掲載されており、それらを読み取ることでインターネットを利用して資料や動画などのデジタルコンテンツが利用できる。 ・どの内容でも共通する考え方である「問題解決の手順」について、各校で1学年の初期段階で学習する「材料と加工の技術」の部分で大きく扱っている。ここでしっかりと考えを身につけることで他の内容での学びに生かすことができるような特色がある。 ・各章のはじめに、小学校や他教科との関連が表示されており、相互の学習内容の理解を深めながら学習を進めることができるような構成に特色がある。 ・学習指導要領には示されていない、発展的な内容も取り上げている。 ・各内容（A～D）の最後には「まとめ」のページがあり、学習の振り返りができるように工夫されている。
4 表記・体裁	○文字、図版等の印刷や文字等の大きさ、書体、表紙等の体裁及び使用上の便宜については、どのような対応がされているか。	・各編を色分けしたり、インデックスを章ごとに表示したりするなど、検索性を高める工夫が見られる。 ・実習する生徒の目線での写真やイラストを用いて実験や実習を説明している。 ・「環境」「技術のたびん」などの様々なマークを表示して、学習の視点を明確にする工夫が見られる。 ・書体はすべて可読性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、大判の紙面を用いて、文字や写真、イラストなどが見やすくなるよう配慮されている。 ・特別支援に対応できるよう、本文の漢字のふりがなはゴシック体で表記されている。また、全ての生徒の色覚特性に適応したデザインとなっている。 ・巻頭に「教科書の学び方」を掲載し、教科書の使い方が理解できるよう配慮されている。	・各編を色分けしたり、インデックスを章ごとに表示したりするなど、検索性を高める工夫が見られる。 ・実験や実習の作業工程等が写真中心で大きく提示されており、見やすく分かりやすい工夫してある。 ・教科書内にあるマーク（「安全」「環境」「災害」「伝統文化」「情報モラル」など）によって、生徒が技術と社会や環境との関りについて「考える」「配慮する」「備える」「意識する」など、いろいろな角度から見ることができるよう配慮されている。 ・本文のフォントサイズが大きく、重要語句が青色で表記されていて見やすく工夫されている。	・各内容（A～D）を色分けして表示したりすることで、検索性を高める工夫が見られる。 ・各内容（A～D）のはじめに「技術の歴史」が年表形式で表示されており、生徒の興味関心を高められる工夫がされている。 ・本文の単語が途中で改行されていないので読みやすい。また、UDフォントが使用されており、読みやすく工夫されている。 ・工具や機器の使用の仕方が生徒目線で詳しく順序立てて説明されている。